

日本地理教育学会 第73回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性(2)

—中学校社会科地理的分野における試案の作成—

日本地理教育学会第73回大会
2023年8月20日(日) 203

小谷 恵津子(玉川大学)
青柳 慎一(久喜市立栗橋西中学校)
植田 真夕子(北海道教育大学旭川校)
(株)帝国書院 研究室

※この資料は、上記4者の共同研究発表資料を一部改編の上、集約したものです。

概念形成に着目した地図活用能力の系統性(2) —中学校社会科地理的分野における試案の作成—

日本地理教育学会第73回大会
2023年8月20日(日)203

小谷 恵津子(玉川大学)*
青柳 慎一(久喜市立栗橋西中学校)
植田 真夕子(北海道教育大学旭川校)
(株)帝国書院 研究室

学級	1	2	3	4	5	6
小学校高学年	1	2	3	4	5	6
中学校	7	8	9	10	11	12

参考資料「社会的事象等について調べまよめる技能」における分類に則して3枚で構成
○縦軸は学年
○横軸は「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」の2つで構成

マトリクス表 A (2) 情報を読み取る技能(読図) (ア) 要素別 (イ) 図の種類別

地図では、陸の高さや土地の傾斜などを色で表現しています。色が高くなるにつれて緑色を濃くして陸の高さを表していることをわかってもらいます。

2

●「小学校で身に付けたい地図活用能力
—3~6年生を対象に—
[令和2年版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』等を元に]



本研究について

研究の目的

地図活用能力を育成するために児童・生徒に具体的に何を指導すれば良いのかを検討し、それらを学校段階や学年・学習内容に着目して整理して、学校教育現場での授業づくりにも活用していただけるものとして示すこと

小学校4年間における地図活用能力育成のための指導内容を検討して、学年と学習内容に基づいて系統性を示す一覧表を作成。さらに、実際の授業を想定した活用例を併せて示し、教授用資料「小学校で身に付けたい地図活用能力」(以下、小学校版)として公表。

- 地図から習得できる「社会的事象等について調べまよめる技能」(マトリクス表A)
- 地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)



学級	1	2	3	4	5	6
小学校高学年	1	2	3	4	5	6
中学校	7	8	9	10	11	12

学年ごとに分け4枚で構成
○縦軸は小学校学習指導要領に示された当該学年の学習内容
○横軸は「地理的な見方・考え方」を構成するものとして示された5つの視点

マトリクス表 B (小学校高学年) 地理から習得できる「地理的な見方・考え方」

p.20~21で具体例を紹介!

3

中学校版試案作成にあたっての基本方針

小学校版の方針や表の構成・枠組みを基本的に継承

① 地図活用能力に関連する概念形成への着目 (小谷2012, 2017)

地図を活用する「技能」の基盤に存在する「方法」に関する概念

→ 地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」
「～できる」とともに「～を知る」も位置付ける (マトリクス表A)

地図を活用することを通して獲得される「内容」に関する概念

→ 地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)

「地理的な見方・考え方」に繋がっていく認識内容を「～を地図から捉える」という形で具体的に示す

地理的な社会事象を取り扱う単元以外でも地図を活用できる場面があることが伝わる点でも効果

② 学校教育現場での利用しやすさを念頭に置く(表の枠組み, 表現, 具体例提示など)

→ 学習指導要領やその解説に示された地理的分野の学習内容に基づいて、具体的な指導内容を検討するため、現行の地図帳(2社)、地理的分野の教科書(4社)に掲載されている地図に関わる学習活動を洗い出し、両表の枠組みに位置付けた上で分析・統合を行う

③ 小・中学校間の地図活用能力育成の繋がりや発展を意識した検討

中学校版マトリクス表Bの作成

地理的分野全体で1枚の表として作成

- 縦軸は学習指導要領に示された地理的分野の学習内容(中項目レベル)
- ※ 大項目Cの(2)「日本の地域的特色と地域区分」、(3)「日本の諸地域」については、独自に小見出しを設定し、認識内容のまとまりごとに整理した形で示す
(例)C(2)①自然環境の小見出し
日本の大地形、小地形、海洋、気候、防災
- 横軸は学習指導要領の解説に「地理的な見方・考え方」を構成するものとして示された5つの視点
- 各単元の指導の流れを意識して配置

中学校では取り上げる地域によって実際の学習内容が異なる場合が多いことへの対応として、指導内容をあえて一般的な形で示す

- 「取り上げる地域によっては扱わない場合があるもの」の記号を付す
- 必要に応じて具体例を付記
(例) 地球的課題 * 州内で発生している環境問題の要因や影響を、州内外の地域との結びつき(他地域での需要増加を背景とした農地開発のための森林伐採など)と関連付けて、地図から捉える【B(2)図5】

マトリクス表B (地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(中学校))

	① 自然環境	② 人口と地域	③ 産業と地域	④ 交通と地域	⑤ 国際化と地域
大項目A(1)①	1. 自然環境の多様性	2. 人口と地域	3. 産業と地域	4. 交通と地域	5. 国際化と地域
大項目A(1)②	6. 自然環境の多様性	7. 人口と地域	8. 産業と地域	9. 交通と地域	10. 国際化と地域
大項目B(1)	11. 自然環境の多様性	12. 人口と地域	13. 産業と地域	14. 交通と地域	15. 国際化と地域

中学校版マトリクス表Aの作成

地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」(1)情報を収集する技能(収集・選択)

	ア 地図の要素別	イ 図の種類別
大項目A(1)①	1. 自然環境の多様性	2. 人口と地域
大項目A(1)②	3. 産業と地域	4. 交通と地域
大項目B(1)	5. 国際化と地域	6. 自然環境の多様性

収集・選択

参考資料「社会的事象等について調べまとめる技能」における分類に則して3枚で構成

- 縦軸は学習指導要領に示された学習内容(大項目レベル)
- 横軸は「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」の2つで構成

各大項目に位置付く指導内容の増加に伴い、小見出しを付けて整理

各小見出しの配置や位置付く項目を授業での学習活動の展開を想定した配置や表現にする

小学校での学習との繋がりや発展が一目で分かるように表中に明示

- 中学校版ではデジタル地図に関わる技能も表中に位置付ける

今後の展望

- 地理総合における中学校・高等学校間の地図活用能力育成の系統性の検討とマトリクス表の作成
- 小学校・中学校・高等学校を通じた地図活用能力育成の総合的な系統性の検討

参考文献

小谷恵津子(2012): 地図を用いた社会科学習で形成する方法概念と内容概念. 新地理, 60(3), pp.1-18.
 小谷恵津子(2017): スケール認識の形成を視点とした小学校地図学習の改善—縮尺指導の授業構成と学習内容の検討を通して—. 新地理, 65(2), pp.1-18.
 文部科学省(2018a): 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 日本文教出版, 217p.
 文部科学省(2018b): 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 東洋館出版社, 237p.

分析した教科書・地図帳

矢ヶ崎典隆・坂上康俊・谷口将紀ほか108名(2021): 『新しい社会 地理』, 東京書籍
 竹内裕一ほか26名(2021): 『中学社会 地理 地域にまなぶ』, 教育出版
 加賀美雅弘ほか22名(2021): 『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』, 帝国書院
 水内俊雄ほか67名(2021): 『中学社会 地理的分野』, 日本文教出版
 矢ヶ崎典隆・石丸哲史ほか13名(2021): 『新しい社会 地図』, 東京書籍
 株式会社帝国書院 代表者 佐藤清ほか11名(2021): 『中学校社会科地図』, 帝国書院



概念形成に着目した地図活用能力の系統性(2)

—中学校社会科地理的分野における試案の作成—

小谷 恵津子 (玉川大)*・青柳 慎一 (久喜市立栗橋西中)
植田 真夕子 (北海道教育大旭川校)・(株)帝国書院研究室

キーワード：地図活用能力 概念形成 社会的事象について調べまとめる技能
地理的な見方・考え方 系統性

1. はじめに

本研究の目的は、地図活用能力を育成するために児童・生徒に具体的に何を指導すれば良いのかを検討し、それらを学校段階や学年・学習内容に着目して整理して、学校教育現場での授業づくりに活用していただけるものとして示すことである。

これまでの研究成果である小学校社会科4年間での具体的な指導内容については、実際の授業を想定した活用例を併せて示し、教授用資料「小学校で身に付けたい地図活用能力」(以下、小学校版)として公表した。その成果をふまえ、中学校社会科地理的分野での試案(以下、中学校版)を作成した。

2. 中学校版試案作成にあたっての基本方針

中学校版でも、地図活用能力育成とその系統を検討する際に概念の形成に着目している。地図を活用して情報を収集したり、読み取ったり、まとめたりするにあたって、それらの活動が「できる」ためには「何が分かっている必要があるのか」にも着目して指導する必要があるためである(小谷、2017)。

また、小・中学校間での地図活用能力育成の繋がりが把握しやすくなるよう、中学校版試案でも、「地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(以下、マトリクス表A)と『地図から習得できる『地理的な見方・考え方』(以下、マトリクス表B)の2種類のマトリクス表から構成し、両表とも基本的には小学校版の枠組みを継続して用いることとし、学習指導要領に示された地理的分野の学習内容に基づいて具体的な指導内容を検討した。

3. 中学校版試案の作成と小学校との系統

a) マトリクス表A

中学校版も「情報を収集する技能《収集・選択》」、「情報を読み取る技能《読図》」、「情報をまとめる技能《作図・描図》」の3つの表で構成した。横軸は小学校版と同様、「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」とする一方で、縦軸は小学校のように学年別で示すことが難しいことから、地理的分野の学習内容を大項目レベルで位置付けた上で小見出しを付けて整理した。また、各小見出しの配置や位置付く項目を、授業での学習活動の展開を想定した配置や表現にすることで、育成する技能の具体が伝わりやすくなるよう工夫した。さらに、小学校に比べて中学校では十分な機会が設けられにくくなっていると考えられる「学習のまとめとしての地図活用」については、小学校との連続性を意識し、「作図・描図」の表だけでなく、「収集・選択」の表にも関連する内容を位置付け、小学校段階からの積み上げが図れるよう試みた。

また、中学校版では各表の冒頭に「小学校修了までに身に付けておきたい技能」、末尾に「中学校修了までに身に付けておきたい技能」を示すことで、地理的分野の学習を通した各技能の発展の具体が把握できる工夫も行っている。中学校版の特徴として、概念形成に関わる指導内容(～について知る)の減少が挙げられる。これは、中学校では小学校で育成した技能を基礎として精緻化や高度化が図られることによると考えられる。また、大項目Bや大項目Cでは、取り上げる国や地域に関する学習内容と関連付きながらスパイラル的に各技能の育成が積み重ねられることで、地図活用能力が発展していくことも明らかになった。

それに対して、図法や地形図活用といった小学校版にはなかった指導内容が加わる大項目Aや大項目Cの地域調査

の学習では、これらの内容に関わる技能の育成が各大項目で大きな割合を占める形で行われるため、概念形成の段階から指導を丁寧に行うことが重要になる。加えて、全ての項目で小学校版に比べてデジタル地図に関わる技能が増加し、かつ高度になることや、中学校入学直後に学ぶ大項目Aでは地図活用に関する技能が学習内容の柱の一つになっていることから、地図活用能力育成における「中1ギャップ」への配慮の必要性も指摘できる。

b) マトリクス表B

中学校版では横軸に「地理的な見方・考え方」を構成する視点として示された5つの地理学の基本概念を、縦軸に地理的分野の学習内容を中項目レベルで位置付けた。ただし、大項目B(2)「世界の諸地域」や大項目C(3)「日本の諸地域」をはじめとして、中学校では取り上げる地域によって実際の学習内容が異なる場合が多いことから、小学校版とは異なり、指導内容をあえて一般的な形で示すこととした。それにより、どの地域をどの主題やどの考察の仕方学んだとしても、地図から習得できる「地理的な見方・考え方」として押さえるべきことが示されているため、指導経験が浅い先生方はもちろん、学校や地域の実態をふまえてより発展的な授業づくりを目指しておられる先生方にも活用していただけるものになったと考えている。

参考文献

- 小谷恵津子(2017): スケール認識の形成を視点とした小学校地図学習の改善—縮尺指導の授業構成と学習内容の検討を通して—。新地理, 65(2), pp.1-18.
- 帝国書院(2023): 小学校で身に付けたい地図活用能力—3~6年生を対象に。https://www.teikokushoin.co.jp/chizuka-tsuyo/sho/ (2023年5月30日)
- 文部科学省(2018): 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 東洋館出版社, 237p.

▼本発表の前提となる昨年度の発表内容はこちらです

- 『小学校で身に付けたい地図活用能力—3~6年生を対象に—』
[令和2年版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』等を元に]



▼本発表の資料はこちらで公開しております。

- 『中学校社会科Webサイト』

地図帳ページ下部の「参考記事」にリンクがございます。



地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』（1）情報を収集する技能 《収集・選択》

青字 は小学校からの積み上げとなる技能

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	<a 方位>		<b 記号>		<c 縮尺>		<d 高さ>		<e 図法>		<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図		<II 主題図> テーマがしぼられた地図		<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図														
小学校修了までに身に付けておきたい技能	・方位磁針や地図を用いて方位や位置を確認しながら地域を実際に歩いたり、調査・見学したりできる。		・地図に示された記号を手がかりに、土地利用、建物や交通の様子などに着目して調査・見学したり、必要な地図を地図帳などから選択したりできる。		・地図に示されている地域の範囲や詳細さを手がかりにして、知りたい情報が読み取れる縮尺の地図を、地図帳から選択できる。		・土地の高さに着目して地域を実際に歩いたり、調査・見学したりできる。				・調べたい地域や知りたいことが示されている一般図を収集したり、地図帳から選択したりすることができる。		・調べたいことに関する主題図を収集したり、地図帳から選択したりすることができる。																
A. 世界と日本の地域構成	1	紙地図の活用 ・特別な目的で作られた、北が上でない地図も存在することを調べる。	地図帳の活用 ・地図帳のさくいんを利用して、地名の掲載ページと、ページ内での位置を調べることができる。 小3(読図)-B15					目的に応じた図法の収集	目的に応じた図法の収集	経緯線が直交する地図、面積が正しい地図、中心からの距離と方位が正しい地図といった程度の図法の違いを理解し、目的に適した地図を選択することができる。	読図の目的に合った地図の収集	目的に応じた図法の収集	目的に応じた図法の収集	目的に応じた図法の収集	目的に応じた図法の収集	目的に応じた図法の収集													
	2																												
	3	ICT活用 ・デジタル地図は自由に方位を変えて表示できるものもあることを調べる。	ICT活用 ・デジタル地図では、Webサイト内の検索窓を見つけて地名を正しく入力し、知りたい地名が載っている範囲を表示させることができる。	ICT活用 ・デジタル地図は自由に縮尺を変えて表示できることを調べる。																									
	4	・デジタル地図で、誤った操作などにより変わってしまった方位の向きを、北が上の状態に戻すことができる。																											
B. 世界の様々な地域	1		・凡例を確認して、課題の設定や追究に適した記号が載っている地図を収集・選択することができる。 小3-B3	・課題の設定や追究に適した縮尺や範囲の地図を収集・選択することができる。 小4-C1	・地形を把握するために、等高線や等高線が載った地図を収集することができる。			目的に応じた高さの表現の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択												
	2		・デジタル地図では、表示できる要素を確認して、課題の設定や追究に適した記号に対応できているWebサイトを収集・選択することができる。	・伸縮可能なデジタル地図を、課題の設定や追究に必要な情報が得られる縮尺や範囲に調整することができる。																									
	3																												
	4																												
	5																												
	6																												
	7																												
	8																												
	9																												
C. 日本の様々な地域	1	・現地で実際の方位と地形図の方位を照らし合わせながら情報を収集することができる。 小3-A1	・現地で観察した様子や地形図上の記号との対応関係を比べながら情報を収集することができる。 小3-B1		・現地で観察した実際の高さや傾斜と地形図上の等高線や標高数値と照らし合わせながら情報を収集することができる。			地形調査と地形図	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択	目的に応じた図法の選択												
	2	・地域調査と地形図	・現地で撮影した写真や映像と地形図上の記号との対応関係を比べながら、地図化するための情報を収集することができる。																										
	3																												
	4																												
中学校修了までに身に付けておきたい技能	・地域調査で実際の方位と地形図の方位を照らし合わせながら情報を収集することができる。		・地域調査で、実際の現地の様子や地形図上の記号を照らし合わせながら、地域の特色となる情報を収集することができる。 ・紙地図の凡例や、デジタル地図の表示可能要素を確認して、課題の設定や追究に適した記号が載っている紙地図やWebサイト等を収集・選択することができる。		・課題の設定や追究に適した縮尺や範囲の地図を収集・選択したり、デジタル地図の縮尺や範囲を調整したりできる。		・地域調査で、実際の高さや傾斜と地形図の等高線を照らし合わせながら情報を収集することができる。		・図法に関する基礎的な理解を踏まえて目的に合った地図を選択することができる。		・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる一般図を収集・選択したり、地域の大観や地域調査に必要な情報を収集・選択したりすることができる。		・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる主題図を収集・選択したり、課題の設定・追究に必要な情報を収集・選択したりすることができる。																

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(2) 情報を読み取る技能 《読図》

青字 は小学校からの積み上げとなる技能

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図									
小学校修了までに身に付けておきたい技能	・4方位と8方位を用いて地図から適切に方位を読み取ったり、あるものを基準にしてどちらの方位にあるかを言い表したりできる。	・地図記号や境界線などを手がかりに地図から情報を読み取ったり、索引をもとに地名を探ることができる。	・調べたいことに応じた縮尺の地図を用いて、距離のものさしを使って地図上から実際の距離を読み取ることができる。	・等高線や等高線の粗密を手がかりに、おおまかな地形の特色や傾斜の様子を読み取ることができる。	・地球儀と世界地図の違いとそれぞれの特徴を知った上で、調べたいことに応じて使い分けすることができる。	・調べたい地域の一般図を用いて、都市や建物などの位置や分布、地形の特色、交通網の広がり、地域間の結びつきの様子などを読み取ることができる。	・調べたいことに応じたテーマの主題図を用いて、凡例を手がかりに知りたい情報を読み取ることができる。										
A. 世界と日本の地域構成	紙地図の活用	地図記号の基礎	縮尺の基礎	等高線の基礎	図法の基礎	一般図の基礎	主題図の基礎	略地図の基礎									
									1	・8方位をさらに細分した16方位があることを知る。 小3-A7	・地図は面、線、点、文字の要素で成り立っていることを知る。 小3-B4	・実際の距離を縮めた割合のことを、「縮尺」と呼ぶことを知る。 小4-C1	・海抜高度を幾つかに区分し、着色して表したものを「等高線」と呼ぶことを知る。 小4-D1	・世界地図について、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など目的に応じた様々な図法の地図があることを知る。	・国の範囲、都市の位置、交通網、標高、地形などを示した基礎となる地図を、「一般図」と呼ぶことを知る。	・様々なテーマで地域の特徴をつかめるようにした地図を「主題図(テーマ地図)」と呼ぶことを知る。	・作図の意図を踏まえて略地図の情報を読み取ることができる
									2	・地図は「北が上」が原則であることを知る。 小3-A7	・地図記号の説明を「凡例」と呼ぶことを知る。 小3-B4	・「縮尺が大きい」「縮尺が小さい」ことの意味を知る。	・面の色などから、山脈や平野など大まかな自然のようすを読み取ることができる。 小4-D3	・世界地図には、必ずゆがみがあること、ゆがみの種類(面積、距離、形、方位、角度など)を知る。	・地図帳の一般図には、地形や植生、都市の規模や交通機関、地名や行政界、土地利用などが様々な記号で表されていることを知る。		・略地図は、伝えたいことを大まかに表すために、デフォルメされた地図であることを知る。
									3	・東西の方位と経度は、日本全国レベルでは開きがあることを知る。	・地図から、直線的な国境を持つ国、川や湖や山脈が国境となっている国を読み取ることができる。	・縮尺記号を「スケールバー」と呼ぶことを知る。		・目的に応じて、地図の図法を使い分けられることを知る。	・目的の場所を、全体の図取りの位置関係から見当をつけて探すことができる。		
									4	・他の国々や大陸、海から見た日本の位置を、方位を用いて読み取ることができる。 小6-A1	・緯度や経度を緯線や経線で表していることを知る。			・正積でない図法の地図で面積を比べてはいけないことを知る。	・地球儀や世界地図、日本地図から地域の区分や範囲、地名を読み取ることができる。		
									5		・日本の位置を緯度・経度を用いて、読み取ることができる。			・地図の図法など資料の用途に留意して情報を読み取ることができる。			
									6		・地図のおもな緯線と経線を用いて、都市のおおよその緯度・経度を読み取ることができる。			・さまざまな都市を中心にした正距方位図法で、都市の方位や距離を読み取ることができる。			
									7		・地球上の位置を緯度・経度を用いて表すことができる。			・緯度によって、1度の距離が異なることを知る。			
									8		・赤道、本初子午線、北半球・南半球などの意味を理解して、地球上の位置を読み取る際に用いることができる。						
	9		・地図帳の索引の情報を読み取り、国の位置を探ることができる。 小3-B15														
	10	地球儀	地球儀	地球儀	地球儀	地球儀	位置関係や空間の広がりを読む	等時帯図の活用									
	・地球儀上で、テープを用いて方位を調べる方法を知る。 小5-A1									・地球儀で、球面上から見た経線や緯線、赤道、回帰線の長さや位置の特色を知る。	◎・地球儀上で、テープを用いて距離を調べることができる。 小5-C1	・地球儀と世界地図の違いとそれぞれの特色を知る。 小5-E1	・地球儀や地図、デジタル地図から位置、分布、形状などをとらえることができる。	・時差を、世界の等時帯の図から読み取ることができる。			
	・東西の方位は、世界全国レベルになると経度と一致しないことを、地球儀を用いて知る。											・地球儀と世界地図上で、大陸と海洋の分布を比較することで、その違いを考察することができる。	・地球儀で陸地面積、形状を正しく読み取ることができる。	・世界各地の時差から見た位置関係を、等時帯図から読み取ることができる。			
	・地球儀の日本の位置に十字のテープをあて、世界の主な国と日本の位置関係にあるか位置関係を正しく捉えることができる。											・球面上で、二地点間の最短距離を捉えることができる。	・六大陸と三大洋の大まかな形状と位置関係を、地球儀や世界地図、大陸別の地勢図などを活用して読み取ることができる。	・等時帯や日付変更線を示す地図と地球儀を見比べて時差の意味を理解したり、時差を調べたりできるようにする。			
	・日本の対蹠点(地球上の正反対の地点)を探ることができる。											・大圏航路とは何かを知る。	・日本の位置を、隣接する大陸や海洋、近隣の国々との位置関係によって読み取ることができる。				
	14						・都道府県や都道府県庁所在地の名称と位置を、日本地図から読み取ることができる。 小4-I3										
15	ICT活用	ICT活用	ICT活用	ICT活用	ICT活用												
・デジタル地図の方位を確認して読むことができる。									・デジタル地図では表示したい要素を自由に選択できることを知る。	・デジタル地図のスケールバーを確認して距離を捉えることができる。	・地理院地図は自由に等高線の区分を変えることができることを知る。						
16		・デジタル地図では、記号にひもづいた情報がある場合、それを別枠で表示できることを知る。	・デジタル地図は、スケールを変えると表示される情報や精度が自動的に変わることを知る。														

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
B. 世界の様々な地域	1	・都市記号から、各都市のおおよその人口を読み取ることができる。		・面の色などから、各地域の陸高や水深を読み取ることができる。 小4-D2		一般図の基礎 ・地図や地球儀は地理的事象を記号や色彩、文字で表現していて、その意味を凡例に示していることを知る。 ・地図の地球上での範囲を示した図を「位置図」と呼ぶことを知る。 ・一般図の記号から各地域の自然や人口、産業、交通などの地理的特色を読み取ることができる。	主題図の基礎 ・統計地図の種類(ドットマップ、等値線図、図形表現図、流線図、階級区分図、メッシュマップなど)を知る。 ・統計地図は種類によってどのような特徴があるのか、どんなテーマに適しているのかを知る。 ・地図帳の主題図には、工場分布や土地利用、鉄道・道路などの個別の主題を取り上げられていることを知る。 小5-II3-5-8 ・主題図は、主題に関する地理的事象を記号や色彩、文字などで表現していて、その意味を凡例に示していることを知る。 ・主題図を、階級区分や地図作成の意図に留意して読み取ることができる。		
	2	・面の色などから、各地域の植生や土地利用などを読み取ることができる。 小3-B12		・等高線彩を手がかりにして、大まかな地形の特色を読み取ることができる。					
	3	・鉄道や道路、河川に着目して、国家間の結び付きを読み取ることができる。							
	4								
	5								
	6					地球儀上で、大まかに日本列島と他国の河川や山脈の長さ、国の大きさなどを比較して、その特色を読み取ることができる。	位置関係や空間の広がりを読む ・世界地図や各地域の一般図で、位置や分布などの広がりから全体の傾向性を読み取ることができる。 ・調べる地理的事象や地域が地図上のどこにあるかを読み取ることができる。 ・川の支流をたどって、河川の流域をつかむことができる。 ・地域区分には、地域の等質性に着目した区分のあることを知る。	位置関係や空間の広がりを読む ・主題図の情報から位置や分布の傾向性を読み取ることができる。 小4-II2 ・主題図の情報から生産の中心地(主要な産地)を読み取ることができる。 小5-II3-4-5	
	7			・気候帯、植生の広がりを表す地図から読み取った情報を、地球儀を使って球面上で捉えることができる。					
	8								
	9								
	10						複数の視点で地域を読む ・一般図と写真を関連付けて、景観の特色を読み取ることができる。 ・一般図から取り出した同一地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取ることができる。 ・地図の分布の要因を、写真など他の資料と結びつけて、読み取ることができる。 ・複数の地図情報を重ね合わせ、関連付けて地域の特色や事象間の関連などを読み取ることができる。	複数の視点で地域を読む ・複数の主題図を関連づけて、因果関係を読み取ることができる。	
	11								
	12								
	13								
	14						他地域と比較する ・異なる地域の地図を比較して類似性や傾向性、共通性、地域的特殊性などを読み取ることができる。 ・異なる地域の共通する情報を比較、関連付けて読み取ることができる。 ・同じ縮尺・図法の一般図で、複数の地域を比較し、地域の違いを読み取ることができる。 ・地域の特色を、周辺の地域と比較して読み取ることができる。	他地域と比較する ・異なる地域の共通するテーマの主題図を比較、関連付けて読み取ることができる。	
	15								
	16								
	17								
	18					・地図と鳥瞰図のそれぞれの長所と短所を知る。	鳥瞰図 ・地形などを立体的な絵で示した地図を、「鳥瞰図」と呼ぶことを知る。 ・鳥瞰図から景観の特色等を読み取ることができる。	主題図の種類に応じた読み取り ・分布図はおおまかな傾向を示すもので、その境界線は厳密なものではないことを知る。 ・分布図の分布の境界は必ずしも明確に分けられないものであることに留意して、その特色を読み取ることができる。 ・ドットマップを、ドットが集中するところに着目して読み取ることができる。 ・等値線図を、値の変化や線の粗密に着目して読み取ることができる。 ・図形表現図を、図形が大きいところ、集まっているところに着目して読み取ることができる。 小3-4-II1 ・階級区分図を、階級の両端の分布に着目して読み取ることができる。 小5-6-II1 ・流線図を、発着地と到着地、流線の太さに留意して、読み取ることができる。 小5-II7 ・数値を面積で表現した地図(カルトグラム)を大陸や国の形状が変形していることを踏まえて適切に読み取ることができる。	
	19				・鳥瞰図を見て、地図のどの部分をどこから見たものか、照らし合わせるができる。				
	20								
	21								
	22								
	23								
	24								
	25								
	26						連合情報を読み取る ・一般図と地球儀、衛星画像などの情報を関連付けて各地域の特色を総合的に捉えることができる。		

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
C. 日本の様々な地域	1		・地形図の記号は、地図の種類や発行時期によって異なる場合があることを知る。	・標高の等しい地点を結んだ線を等高線と呼ぶことを知る。 小3-D2		地域調査と地形図 ・国土地理院が作成している、日本の基準となる地図を「地形図」と呼ぶことを知る。 ・Webサイト「地理院地図」では、地形図をデジタル版で閲覧できることを知る。	地域調査と主題図 自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に関わる日本全体や各地方の特色を、地図帳の様々な主題図から読み取ることができる。 自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に関わる自治体単位での統計情報を、Webサイト上の主題図から読み取ることができる。		
	2		・地形図の記号を読んで、そこで撮影された写真の位置を特定することができる。	・縮尺から、地図上の1cmが実際の距離では何m(km)かを計算することができる。	・等高線には、計曲線と主曲線という種類があることを知る。			位置関係や空間の広がりを読む ・大縮尺の地図で、等高線から土地の起伏等を、地図記号から土地利用や分布等を読み取るなど、空間の広がりを捉えることができる。 小3-I3-4 ・一般図の地形や交通などの情報から、地域的な結びつきを読み取ることができる。 ・地域区分には、機能的に結びつく範囲によって地域区分したものなど、行政区分に基づかない地域区分もあることを知る。 ・地域が持つ共通点や差異から傾向性を見いだして、一般図を地域区分して捉えることができる。	位置関係や空間の広がりを読む 主題図の情報から、生産地と消費地、生産地と資源供給地といった地域間の結びつきの関係性を読み取ることができる。 小3-II1 ・主題図の情報から、都心とその郊外が結びつき都市圏という地域のまとまりを形成していることなど、大小さまざまな地域の関係性を読み取ることができる。 主題図の情報から、地域的なまとまりを読み取り、大まかに地域区分することができる。 ・人や物の移動をテーマとした主題図から、移動の傾向を読み取ることができる。 小4-II1 ・同じテーマを示した年次の異なる主題図から、変化の傾向を読み取ることができる。
	3		・地形図と、同範囲の空中写真とを照らし合わせることができる。 小4-C1	・縮尺から、実際の1kmが地図上何cmかを計算することができる。 小3~4-C2	・等高線の粗密と、斜面の傾斜の緩急の関係を知る。 小4-D5				
	4		・年代の異なる地形図で、記号を照らし合わせて同じ範囲を特定することができる。 小3~4-C2	・地図上の長さを測り、縮尺をみて、実際の距離では何m(km)かを計算することができる。	・地形図の等高線や水準点から、標高を読み取ることができる。	防災の視点で読む ・洪水ハザードマップの危険度と標高の関係を読み取ることができる。 ・津波ハザードマップの危険度と標高の関係を読み取ることができる。	防災の視点で読む ・洪水ハザードマップには浸水深が示されていることを知る。 ・ハザードマップから、ある地点で予想されている被害の大きさを、読み取ることができる。 小4-II4 ・ハザードマップから、避難先とそこまで安全に移動できる避難経路を、読み取ることができる。 小4-II4 ・ハザードマップから、想定を上回る災害が起きた時の対応を、読み取ることができる。 ・災害図上訓練で、地図を用いて防災対策を考案することができる。 ・学校周辺地域で予測される自然災害の種類や、危険な場所の傾向性を、作成した地図や関係する主題図を見比べて読み取ることができる。 ・文献調査による過去の災害の地図等を、災害の傾向や要因などと関連付けて見比べることができる。		
	5		・年代の異なる地形図で、図式や凡例を参照をしながら、地域の変化を読み取ることができる。	・1/2.5万地形図は、同範囲を示した1/5万地形図の4倍の面積になることを知る。	・等高線を見て、尾根線と谷線をたどることができる。			連合情報を総括 ・一般図や主題図から地域的特色を捉えて、地域の課題を見出し、考察したりすることができる。	テーマに応じた主題図の凡例を手がかりに、調べたい地域に関する情報を読み取ったり、複数の情報や資料を比較、関連付けて読み取ったりすることができる。 ・作図の意図を踏まえて、適切に情報を読み取ることができる。
	6		・地形図上に描かれたルートや記号から大まかに風景を読み取ることができる。	・地図上の正方形の場所の実際の面積を、計算することができる。	・等高線の形から、小地形(扇状地、三角州、台地など)を読み取ることができる。				
	7		・縮尺の異なる2枚の地図に掲載された二地域の面積の大小を、縮尺の割合に着目して判断できる。	・地図上の正方形の場所の実際の面積を、計算することができる。	・等高線から土地の起伏を読み取ることができる。				
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15	防災の視点で読む	・火山の噴火による火山灰の降灰地域と風向きとの関係、おおまかに予測することができる。	・ハザードマップに、避難場所や避難所などが記号や文字で示されていることを知る。	・縮尺から、避難所までの距離を読み取ることができる。	・洪水ハザードマップの危険度と標高の関係を読み取ることができる。			
	16	防災の視点で読む	・ハザードマップの凡例を見て、災害に関する情報を読み取り、災害時の危険を予測することができる。	・ハザードマップの凡例を見て、災害に関する情報を読み取り、災害時の危険を予測することができる。		・津波ハザードマップの危険度と標高の関係を読み取ることができる。			
	17								
	18								
	19								
	20								
	21								
	22								
中学校修了までに身に付けておきたい技能	・16方位を用いて地図から適切に方位を読み取ったり、大陸や国、都市などの位置関係を読み取ったりすることができる。	・地図のスケールや種類に応じて、記号や彩色、文字などを手掛かりに位置や分布など地理的事象に関する情報を読み取ることができる。 ・緯度と経度(緯線・経線)を手掛かりにして位置関係を読み取ることができる。 ・デジタル地図での記号の操作方法を知る。	・適切なスケールの地図を用いて地理的な事象を読み取ることができる。 ・縮尺に留意して距離や範囲を読み取ることができる。	・等高線や等高線から土地の起伏を捉えて、おおまかな地形の特色や傾斜の様子を読み取ったり、他の情報と関連付けて地域の特色を読み取ったりすることができる。	・正積図、正距方位図などの図法の特徴を理解し、目的に応じた地図を選択して情報を読み取ることができる。	・調べたい地域の一般図を用いて、地理的特色を読み取ることができる。 ・一般図や主題図から地域的特色を捉えて、地域の課題を見出し、考察したりすることができる。	・テーマに応じた主題図の凡例を手がかりに、調べたい地域に関する情報を読み取ったり、複数の情報や資料を比較、関連付けて読み取ったりすることができる。	・作図の意図を踏まえて、適切に情報を読み取ることができる。	

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
小学校修了までに身に付けておきたい技能	方位を意識して地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。基本的に北を上にして描くことができる。	白地図や略地図の適切な位置に、表現したいこととがらに記号を用いて表現することができる。	実際の距離を意識して地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。	高さを意識して段彩を用いて地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。		地図記号や段彩を適切に用いて白地図や略地図上に地域の様子を表現することができる。	表現したいテーマに応じた縮尺の白地図や略地図を用い、高さや表現したいこととがらに関する凡例を作成したうえで、適切に表現することができる。	示したい地域のおよその形や都市や事物の位置などを大まかに捉えて略地図を描くことができる。	
A. 世界と日本の地域構成	1							世界の略地図の基礎	
	2								
	3								
	4							日本の略地図の基礎	
	5								
	6	ICT活用	タブレットを活用し、取り上げる地域の特色を示すために、方位を自由に動かして、地図を表示することができる。	ICT活用	タブレットを活用し、画面のサイズに応じて縮尺を変えて、示したい地域を適切に表示することができる。				
B. 世界の様々な地域	1		凡例を示しながら、土地の特徴を表す地図記号を設定し、記入することができる。 小3-B1-2	自分で縮尺を設定して、地図を作成することができる。 (小3-C1)		白地図作成には、基になる地図から岸線・行政界・鉄道・道路などを写し取るとよいことを知る。	主題図作成の際に、自分らしい表現を工夫して着目させたい情報を地図に示すことができる。		
	2		自分で記号とその凡例を設定して、視覚的に捉えやすい地図を作成することができる。	自分の描いた地図に、正しい縮尺を入れることができる。		トレーシングペーパーを用いて、一般図から欲しい情報だけを抜き出して地図を作成することができる。 小4-I1	学習で取り上げた事例を主題図上に位置付け、様々な事例を比較することができる。		
	3					白地図に、記号や文字などを記入して地図を作成することができる。 (小4-I2)	一般図をベースマップとして、ある視点に基づいて収集した情報を重ねて調べた結果をまとめることができる。		
	4					白地図に、等高線などの着色をして地図を作成することができる。			
	5					白地図に、地形や産業などを記入して地域の総合的なイラストマップを作成することができる。 (小4-I2)	統計資料を基に、工夫をしながら分かりやすい階級区分図や分布図、流線図等をつくることことができる。		
	6					地図を有効に利用し、自分らしい地図表現を工夫して地域の全体像を示す地図を作成することができる。	目的に合わせて、統計数値を図に表現する方法を選択できる。	世界の略地図を描いて、取り上げた地域の位置などを示すことができる。	
	7					白地図に地理的な情報(言葉、記号、イラスト、写真、図表等)を書き込み、まとめることができる。	白地図に、簡単な記号を使ったドットマップを作成することができる。	各国や各州の略地図を描いて、追究した結果をまとめることができる。	
	8					地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを有効に活用し、学習成果を白地図上に表現することができる。	統計数値を元に、県別・国別の階級区分図を作成することができる。	自分らしい表現を工夫して要点が伝わりやすい略地図を作成することができる。	
	9						気候帯と雨温図を結びつけた地図を、作成することができる。		
	10						目的に応じて、分布図とグラフを組み合わせた地図を作成することができる。		
	11						グラフと地図を組み合わせた自分らしい地図を、作成することができる。		
	12		タブレットを活用し、自分でアイコン(記号)とその凡例を設定して、視覚的に捉えやすい地図を作成することができる。			デジタル地図では、3D化や着色変更などの加工、断面図作成などの処理が容易であることを知る。	ICT活用	タブレットを活用して、学習した地域の全体像を表す白地図まとめを作成することができる。	Webサイトから入手したデータを活用して、地図を作成することができる。
	13		タブレットを活用して、調べた情報や写真、グラフなどが提示できるアイコン(記号)とその凡例を加えた地図を作成することができる。			デジタル地図の3D化機能を活用し、標高に着目させる地図を作成することができる。	ICT活用	タブレットを活用して、グループで一つの白地図まとめを作成することができる。	設定したテーマについて調べたことを、タブレットを活用して、主題図にまとめることができる。
	14						ICT活用	作成した白地図まとめを、タブレットで共有しながら話し合う中で、よりよく手直して作図することができる。	タブレットを活用して、比較したい二つの地域の同じテーマを示した主題図を作成することができる。
	15						ICT活用	デジタル地図を操作して、表示したい要素を選択し、他者にも分かりやすい地域の全体像を表す白地図まとめをすることができる。	タブレットを活用して、一つの地域の比較したい異なるテーマを示した主題図を作成することができる。

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

学習指導要領の大項目	＜a 方位＞		＜b 記号＞		＜c 縮尺＞		＜d 高さ＞		＜e 図法＞		＜Ⅰ 一般図＞ 地域の全体像をあらわした地図		＜Ⅱ 主題図＞ テーマがしぼられた地図		＜Ⅲ 略地図＞ 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
C. 日本の様々な地域																		
	中学校修了までに身に付けておきたい技能	・16方位を念頭に置きながら、大陸や国、都市などの位置関係を大まかに捉えらるる地図を描くことができる。 ・基準とした地点（都市）を中心に、正しい位置関係で地図を描くことができる。		・地図記号を活用して凡例を示しながら、地域の特色を端的に表現する地図を描くことができる。 ・タブレットを活用し、自分でアイコンを設定して視覚的に捉えやすい地図を作成することができる。		・目的に応じた地図を描くために、縮尺を自分で選択、設定することができる。		・等高線をもとに、断面図を描いたり、着色したりするなどして、土地の傾斜や起伏の様子を表現することができる。		・目的に合う図法を選択して、伝えたいテーマを適切に表現した地図を描くことができる。		・紙面やタブレットで、地域の全体像を視覚的に捉えやすい地図にまとめることができる。		・紙面やタブレットで、統計資料や地理情報システムを活用しながら、地域の特色を表す主題図を描くことができる。		・紙面やタブレットで、おおよその形や特徴的な事象を捉えた世界地図や日本地図を描くことができる。		

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

発達段階	概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
A 世界と日本の地域構成 ①世界の地域構成	1	・ 地球の海洋や陸地の広がりを面積の割合に着目して、地球儀や正積図法で描かれた地図から捉える。	・ 地球の海洋や陸地の特徴を、陸半球と水半球といった分け方に着目して、地図から捉える。			
	2	・ 六つの大陸と三つの海洋の名前や位置関係を、世界地図から捉える。	・ 六つの大陸と三つの海洋の特徴を、位置や名称に着目して、世界地図から捉える。			
	3	・ 六つの州の位置や範囲を、大陸や海洋に着目しながら世界地図から捉える。	・ 世界を地域区分するために、六つの大陸に着目して、地図から捉える。			
	4	・ 世界の主な国々の名前と位置を、大陸や海洋に着目しながら世界地図から捉える。	・ 世界の主な国々の特徴を、位置や名称に着目しながら世界地図から捉える。			
	5		・ 島国(海洋国)と内陸国の特徴を、位置の違いに着目して、地図から捉える。			
	6	・ 緯線と経線の関係や、赤道と本初子午線、日付変更線の位置を、地球儀や地図から捉える。				
	7	・ 世界の主な国々の位置を、緯度と経度によって地図から捉える。				
	8	・ 国境を地形や経線、緯線などの重なりに着目して、地図から捉える。				
	9	・ 世界の気候を、緯度の高さによる太陽の光の当たり方に着目するなどして、地球儀や世界地図から捉える。	・ ヨーロッパなどの高緯度地域の特徴を、太陽が沈まない白夜に着目して、地図から捉える。			
	10	・ 世界の気候の季節変化を、地軸の傾きによる太陽の光の当たり方の違いに着目するなどして、地球儀や世界地図から捉える。				
②日本の地域構成	1	・ 日本の領域の範囲を、周辺の海洋の広がりや構成する島々に着目して、地図から捉える。	・ 日本の領土の特徴を、離島を含む大小多数の島々からなり、それらは弧状に連なることに着目して、地図から捉える。			
	2	・ 日本の領域（日本の固有の領土である竹島や北方領土などを含む）や排他的経済水域の位置や広がりを、地図から捉える。	・ 日本の領域（国境）の特徴を、領土をめぐる問題や排他的経済水域に着目して、地図から捉える。			
	3		・ 日本の国土が海洋国家としての特徴があることを、他の国々の国土面積や、領海や排他的経済水域を含めた面積での比較に着目して、地図から捉える。			
	4	・ 北方領土周辺の国境線の位置の変化を、年次の異なる複数の地図から捉える。	・ 日本の国境の特徴を、歴史的経緯や、島国（海洋国）であるため直接他国と陸地を接していないことに着目して、地図から捉える。			
	5	・ 日本の国土の位置について、同緯度・同経度の国々に着目するなどして、絶対的位置（数理的な位置）を、地図から捉える。	・ 日本の国土の特徴を、絶対的位置（数理的な位置）に着目して、地図から捉える。			
	6	・ 日本の国土の位置について、様々な相対的位置（関係的位置）を、地図から捉える。	・ 日本の国土の特徴を、様々な相対的位置（関係的位置）に着目して、地図から捉える。			
	7	・ 47都道府県の位置や名称を、地図から捉える。	・ 47各都道府県の特徴を、位置や名称、県庁所在地名に着目して、地図から捉える。			
	8	・ 都道府県境を、山地や河川・海峡などの地形との重なりに着目して、地図から捉える。	・ 日本の都道府県の特徴を、未確定境や飛び地に着目して、地図から捉える。			
B 世界の様々な地域 (1)世界各地の人々の生活と環境	1	・ 世界の年間降水量の分布を、地図から捉える。		・ 伝統的な衣服の材料・形の特徴や分布を、気候の特色と関連付けて、地図から捉える。		・ 地図から読み取った分布や特徴に基づき、気候や衣食住から見た世界の特色や変容を総合的に捉える。
	2	・ 世界の気候区分を、緯度と関連付けて、地図から捉える。	・ 世界の各気候帯の気候の特徴を、地球上の位置や地形、海からの距離などの自然的条件に着目して、地図から捉える。	・ 伝統的な主食や伝統的な食材の特徴や分布を、気候や植生の特色と関連付けて、地図から捉える。		
	3	・ 世界の気候区分を、海流と関連付けて、地図から捉える。	・ 世界の各気候帯で見られる植生の特徴を、気候の特徴に着目して、地図から捉える。	・ 伝統的な住居の材料・建て方の特徴や分布を、気候や植生の特色と関連付けて、地図から捉える。		
	4	・ 北半球では、方位と緯度・気候の関わりは日本と同じであることを、地図から捉える。				
	5	・ 南半球では、方位と緯度・気候の関わりは日本と逆になることを、地図から捉える。				
	6				・ 各地の人々による地域開発を、植生などに与えている影響と関連付けて、地図から捉える。	
	7	・ 世界のおもな宗教の分布を、地図から捉える。	・ 世界の特徴を、おもな宗教に着目して、地図から捉える。			
	8	・ 世界のおもな共通語・公用語の分布を、地図から捉える。	・ 世界の特徴を、おもな共通語・公用語に着目して、地図から捉える。			
	9	・ *・携帯電話やインターネットの普及率が高い地域の分布を、地図から捉える。	・ *・携帯電話の契約数が固定電話の契約数より大幅に高い地域の特徴を、地図から捉える。			

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

発達段階	概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
(2) 世界の諸地域	1	・ 州（アジア、オセアニアなど）をさらに細かく区分した地域の位置と名称を、地図から捉える。	・ 州を構成する国の領域や地域の範囲の特徴を、国境の歴史的な変化（植民地支配からの独立など）に着目して、地図から捉える。		・ 州を構成する国の領域や地域の範囲（アメリカ合衆国の領土の拡大など）について、州内外の国や地域との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	・ 構成する各地域の特色に基づき、州全体のすがたを総合的に捉える。
	2	・ 州の地形（おもな山脈や平野、半島、川、砂漠など）の位置や広がりを、地図から捉える。	・ 州の特徴を、地形（おもな山脈や平野、半島、川、砂漠など）に着目して、地図から捉える。			
	3	・ 州の気候（気温、降水量、季節変化）の分布と、その要因（緯度、風向、海流、海からの距離など）を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、気候（気温、降水量、季節変化）の分布と、その要因（緯度、風向、海流、海からの距離など）に着目して、地図から捉える。			
	4	・ 州の植生の広がりや土地利用の分布を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、植生の広がりや土地利用の分布に着目して、地図から捉える。			
	5	地球的課題・世界のおもな環境問題（地球温暖化、砂漠化、大気汚染、熱帯林の減少など）について、発生している地域の位置や分布を、地図から捉える。	地球的課題 * ・ 州内で環境問題が発生している国や地域の特徴を、森林や砂漠の位置や広がりの変化、産業の発達や地域開発の進展などに着目して、地図から捉える。	地球的課題 * ・ 州内で発生している環境問題を、自然環境の変化や地域開発（森林伐採など）と関連付けて、地図から捉える。	地球的課題 * ・ 州内で発生している環境問題の要因や影響を、州内外の地域との結びつき（他地域での需要増加を背景とした農地開発のための森林伐採など）と関連付けて、地図から捉える。	
	6	・ 州で人口が集中しているところの分布や広がりを、地図から捉える。	・ 州の特徴を、人口が集中しているところの分布や広がり、その変化に着目して、地図から捉える。	・ 州で見られる人口密度が高い地域を、自然環境やさかんな産業と関連付けて、地図から捉える。	・ 州で見られる人口の流入や流出を、他地域の社会や経済の状況（紛争の発生や産業の発達など）と関連付けて、地図から捉える。	
	7		・ 州の特徴を、人口増加率や年齢別人口割合に着目して地図から捉える。			
	8		地球的課題 * ・ 州内で人口や食料に関する問題が発生している国や地域の特徴を、合計特殊出生率や乳幼児死亡率、貧困率、一人あたりカロリー摂取量などに着目して、地図から捉える。	地球的課題 * ・ 州内で発生している人口や食料に関する問題を、自然環境の変化（砂漠化など）と関連付けて、地図から捉える。		
	9	・ 州の主要な産業（農業・畜産業・林業・水産業・鉱工業・観光業など）が盛んな地域の位置や分布の変化を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、主要な産業（農業・畜産業・林業・水産業・鉱工業・観光業など）の分布やその変化に着目して、地図から捉える。	・ 州で見られる生産が盛んな農作物や畜産物の違いを、気候や地形と関連付けて、地図から捉える。	・ 州内の農業がさかんな地域と畜産業がさかんな地域の間に見られる結びつき（アメリカ合衆国の飼料用作物の生産など）を、相互に及ぼしている影響と関連付けて、地図から捉える。	
	10			・ 州で見られる農業地域の分布の違い（稲作・畑作など）を、自然環境や灌漑施設と関連付けて、地図から捉える。		
	11			・ 州で見られる農業以外の主要な産業（畜産業・林業・水産業・鉱工業・観光業など）の分布を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。	・ 州で見られる主要な産業（農業・鉱工業・観光業など）の発達や変容を、他地域との結びつきやその変化と関連付けて、地図から捉える。	
	12	* ・ 州内の一人あたりGDPが高い国や地域の位置や分布を、地図から捉える。	地球的課題 * ・ 州内や取り上げた国の中で発生している地域格差の特徴を、経済的な特徴（開発の進展や資源・産業の分布など）に着目して、地図から捉える。			
	13				・ 取り上げた地域の貿易の特色を、他地域との結びつきやその変化と関連付けて、地図から捉える。	
	14	・ 州のおもな生活・文化や歴史的背景に関する事物の位置や分布を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、おもな生活・文化や歴史的背景に着目して、地図から捉える。		・ 州のおもな生活・文化の分布やその変化を、過去や現在の他地域との結びつき（シルクロードを通じた交流など）と関連付けて、地図から捉える。	
	15	・ 州のおもな民族や言語の分布を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、おもな民族や言語の分布に着目して、地図から捉える。		・ 州のおもな民族や言語の分布や変化を、過去や現在の他地域との結びつき（移民や過去の植民地支配など）と関連付けて、地図から捉える。	
	16	・ 州のおもな宗教の分布を、地図から捉える。	・ 州の特徴を、おもな宗教の分布に着目して、地図から捉える。			
	17	・ 州を中心として設立されている地域機構（EU・ASEANなど）の加盟国の位置と名称を、地図から捉える。			* ・ 州を中心として設立されている地域機構（EU・ASEANなど）の加盟国の推移を、政治や経済の状況と関連付けて、地図から捉える。	
C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法	1	* ・ 調査対象地域における、人口や産業の分布、交通網の広がりなどを、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域の特徴（景観）を、人口の偏在に着目して、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域の土地利用を、地形や降水量の分布などの特徴と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域の人々の活動の様子を、地域の内外との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	・ 地図から読み取った情報と地域調査で収集した情報をもとに、調査対象地域の特色と全体像を捉える。
	2		* ・ 調査対象地域の特徴（景観）を、産業の変容に着目して、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域の人々の生活の様子を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。		
	3		* ・ 調査対象地域の特徴（景観）を、交通の発達（衰退）の様子に着目して、地図から捉える。			
	4		* ・ 調査対象地域の特徴（景観）の変化を、新旧の地図を複数、比較しながら捉える。			
	5		* ・ 調査対象地域における自然災害の傾向性を、地図から捉える。			

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

発達段階	概念	<① 位置や分布>		<② 場所>		<③ 人間と自然環境との相互依存関係>		<④ 空間的相互依存作用>		<⑤ 地域>	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。		・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。		・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	
(2)日本の地域的特色と地域区分 ①自然環境 <日本の大地形>	1	・ 日本周辺は、プレートが沈みこむ境界が複数分布していることを、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、環太平洋造山帯に属して、世界の中でも地震や火山の多い不安定な大地上に位置していることに着目して、地図から捉える。						・ 地図から読み取った、日本の地形の分布や特徴などに基づき、日本の自然環境の特色を総合的に捉える。	
	2	・ 日本の山地・山脈のおおまかな分布を、その方向に留意して、地図から捉える。		・ 日本の地形の特徴を、フォッサマグナを境にして、西南日本は東西方向に、東北日本は南北方向に背骨のように山脈が走ることに着目して、地図から捉える。							
	3	・ 日本のフォッサマグナと中央構造線の位置を、地図から捉える。									
	4	・ 日本のおもな火山分布の特色を、地図から捉える。									
<小地形>	5	・ 日本の平野や盆地の分布を、川との関わりに留意して、地図から捉える。		・ 日本の地形の特徴を、堆積平野の特色をもった規模の小さな平野が臨海部に点在していることに着目して、地図から捉える。							
	6			・ 日本の河川の特徴を、世界の中でも短く急流であることに着目して、地図から捉える。							
	7			・ 扇状地や三角州の特徴を、土地利用に着目して、地形図から捉える。							
	8	・ リアス海岸の分布を、地図から捉える。		・ 日本の海岸の特徴を、砂浜海岸や岩石海岸などが見られることに着目して、地図から捉える。							
<海洋>	9	・ 日本周辺の大陸棚や海溝の分布を、地図から捉える。		・ 日本の近海の特徴を、海底に大陸棚が広がり、温暖の海流が出会い世界的な漁場となっていることに着目して、地図から捉える。							
	10	・ 日本近海の海流の分布を、地図から捉える。				・ 日本の特徴を、暖流と寒流がぶつかる海に囲まれ漁場に恵まれていることと関連付けて、地図から捉える。					
<気候>	11	・ 日本の年降水量や積雪量の分布や夏と冬の違いを、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、多くの地域は温帯に属し、降水量も多く、森林、樹木が成長しやすい環境にあることに着目して、地図から捉える。						・ 地図から読み取った、日本の気候の分布や特徴、区分などに基づき、日本の自然環境の特色を総合的に捉える。	
	12	・ 日本の年平均気温の分布や夏と冬の違いを、地図から捉える。									
	13	・ 日本に来る台風の本来的な進路を、地図から捉える。									
	14			・ 日本の特徴を、夏と冬で変化する季節風に着目して、地図から捉える。							
	15			・ 日本の季節変化の特徴を、桜の開花や紅葉の時期などに着目して、地図から捉える。							
	16	・ 日本の気候は、各地の気候を比較して幾つかに気候区分できることを、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、気温・降水量とその季節変化が、南と北、太平洋側と日本海側、内陸部と臨海部で違いが見られることに着目して、地図から捉える。							
<防災>	17	・ 日本のおもな過去の震源分布や地震による被害を、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、大規模な地震や台風など、多様な自然災害の発生しやすい地域が多く、早くから防災対策に努めてきたことに着目して、地図から捉える。						・ 地図から読み取った、日本の自然災害の分布や特徴、防災への取組などに基づき、日本の自然環境の特色を総合的に捉える。	
	18	・ 日本の台風、冷害、干害、雪害、地すべりなどの気象災害が多い地域の分布を、地図から捉える。									
	19	・ 取り上げた地域の火山の噴火、洪水や土石流の被害の分布を、地図から捉える。									
	20	*・南海トラフで予想されている地震と津波の被害の大きさを、地図から捉える。									
②人口	1	・ 日本の人口が集中している地域や都市、過疎地域の分布を、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、世界の中で人口が集中していることに着目して、地図から捉える。		・ 日本の人口分布が不均等であることを、平野部には過密地域が、山間部には集落がまばらに点在する過疎地域が見られることと関連付けて、地図から捉える。		・ 日本の人口を、東京圏・大阪圏への人口移動と関連付けて、地図から捉える。		・ 地図から読み取った、分布や特徴、関連などに基づき、日本の人口の特色を総合的に捉える。	
	2	・ 日本の人口が増加、減少している地域の分布を、地図から捉える。		・ 日本の人口の変化の特徴を、世界の中で増加、減少している地域に着目して、地図から捉える。							
	3	・ 日本の高齢化が進んでいる地域の分布を、地図から捉える。		・ 日本の特徴を、世界に類を見ない速さで少子化、高齢化が進んだことに伴う課題に直面していることに着目して、地図から捉える。							
	4			・ 日本の過疎地域の特徴を、産業の分布との関わりに着目して、地図から捉える。							
	5	・ 日本の外国人人口の割合の多い地域の分布を、地図から捉える。									

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

発達段階	概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	
③資源・エネルギーと産業 <資源・エネルギー>	1	・ 世界のエネルギー資源・鉱産資源が、偏った地域に分布していて、日本は資源の乏しい地域であることを、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、環境やエネルギーに関する課題の現れ方に地域差が見られることに着目して、地図から捉える。			・ 地図から読み取った、分布や特徴、関連などに基づき、日本の資源・エネルギーの特色を総合的に捉える。	
	2	・ 世界の資源の消費が、偏った地域に分布していて、日本は消費量の多い地域であることを、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、資源やエネルギーの大量消費に伴う環境問題、エネルギー問題を抱えた国の一つであることに着目して、地図から捉える。		・ 日本のエネルギー資源や鉱産資源を、ほとんど産出しないために消費する資源の大部分を海外からの輸入に依存していることと関連付けて、地図から捉える。		
	3	・ 日本のおもな発電所や新しいエネルギーの分布の特色を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、風力発電や太陽光発電などの新しいエネルギーの開発に努力していることに着目して、地図から捉える。	・ 日本の新しいエネルギーの開発を、風力や太陽光などの自然環境と関連付けて、地図から捉える。	・ 日本の環境やエネルギーに関する課題を、都市部と地方との地域差と関連付けて、地図から捉える。		
<産業全体の分布>	4	・ 日本の土地利用(市街地、水田、畑、森林)の分布を、地図から捉える。	・ 太平洋ベルトの特徴を、工業や流通、金融、情報などに関する産業が盛んなことに着目して、地図から捉える。			・ 地図から読み取った、分布や特徴、関連などに基づき、日本の産業の特色を総合的に捉える。	
	5		・ 日本海側や北海道の特徴を、農業や水産業、地場産業、観光産業が盛んなことに着目して、地図から捉える。				
<農林水産業>	6	・ 日本のおもな農作物や畜産物の分布の特色を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、水田がほぼ全国に分布する一般の共通性に着目して、地図から捉える。	・ 日本の稲作の特徴を、平野の地形や冬の降水量の多さと関連付けて、地図から捉える。	・ 日本の食料確保を、おもな品目の輸入先と関連付けて、地図から捉える。		
	7	・ 日本の都道府県、市町村別の農業生産額の多い県や市の分布を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、耕地の半分以上が水田であることに着目して、地図から捉える。	・ 日本の果樹栽培の特徴を、斜面の地形や日当たりのよさと関連付けて、地図から捉える。	・ 日本の近郊農業の特徴を、大都市との距離と関連付けて、地図から捉える。		
	8			・ 日本の促成栽培や抑制栽培の特徴を、気候と関連付けて、地図から捉える。	・ 日本の施設園芸農業や促成栽培や抑制栽培の特徴を、大都市と結ぶ交通網の整備と関連付けて、地図から捉える。		
	9	・ 日本の木材生産量が多い地域の分布を、地図から捉える。					
	10	・ 日本のおもな水産物の水揚げや養殖の分布を、地図から捉える。		・ 日本の水産業の特徴を、暖流と寒流、それらがぶつかる世界有数の好漁場があることと関連付けて、地図から捉える。			
<工業>	11		・ 日本の特徴を、世界の中で先進工業国と捉えられていることに着目して、地図から捉える。				
	12	・ 日本の工業地帯・地域の分布の特色を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、工業地帯・地域の分布に着目して、地図から捉える。	・ 臨海部での地域的分業を、造船業や、輸入資源を原材料とする工業（製鉄業や石油化学工業など）が見られるなどの自然的条件と関連付けて、地図から捉える。	・ 日本の工場分布を、高速道路網や空港の整備と関連付けて、地図から捉える。		
	13	・ 日本のおもな工業製品の分布の特色を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、おもな工業製品の分布の特色に着目して、地図から捉える。		・ 日本の工業を、原料の輸入と関連付けて、地図から捉える。		
	14	・ 日本の、工業生産額の多い都道府県の分布を、地図から捉える。			・ 特定の地域で盛んな産業の分布（都市部で印刷業が盛んなど）を、社会的条件によって産業の地域的分業が進んでいることと関連付けて、地図から捉える。		
	15	・ 日本の、工業の付加価値額が高い都道府県の分布を、地図から捉える。			・ 都市部では研究や技術開発が盛んであることを、研究機関や交通や情報の集積などの社会的条件と関連付けて、地図から捉える。		
	16	・ 日本の伝統的工芸品の指定品目数が多い都道府県の分布を、地図から捉える。					
	17				・ 日本の工業を、製品の輸出と関連付けて、地図から捉える。		
	18				・ 日本の工場の海外進出（自動車工業など）を、おもな販売先や進出先の人件費などと関連付けて、地図から捉える。		
	19				・ 日本の産業の空洞化を、工場の海外進出と関連付けて、地図から捉える。		
	20	・ 日本のかつての公害の分布を、地図から捉える。					
<第3次産業>	21	・ 日本の、商業施設の分布を、地図から捉える。	・ 日本の特徴を、他の先進国と同様に、第3次産業従事者の割合が最も高いことに着目して、地図から捉える。		・ 日本の大型商業施設の分布を、幹線道路と関連付けて、地図から捉える。		
	22				・ ソフトウェアや映像制作など情報を扱う産業を、大都市に集中して分布することと関連付けて、地図から捉える。		
	23				・ 電子商取引の利用金額の分布を、離島や農山村など商業施設への行きにくさと関連付けて、地図から捉える。		

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

発達段階	概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	
④交通・通信	1				・ 日本の交通網を、人や物資の国際間の移動が活発で、世界の交通網が集中する拠点の一つになっていることと関連付けて、地図から捉える。	・ 地図から読み取った、分布や特徴、関連などに基づき、日本の交通・通信の特色を総合的に捉える。	
	2	・ 日本の、貿易額の多いおもな港の分布を、地図から捉える。			・ 日本と世界の結びつきを、海外との物流の手段としては船舶（外航船）が、人の往來の手段としては航空機が多用されるなど、主に輸送対象によって輸送手段の違いが見られることと関連付けて、地図から捉える。		
	3				・ 日本国内の地域間輸送の結びつきを、航空路、新幹線や鉄道、高速道路などの交通網と関連付けて、地図から捉える。		
	4				・ 日本の交通網を、国内の物流の輸送手段は自動車と船舶が、人の往來では自動車や鉄道、航空機、船舶といった多様な交通機関が利用されるなど、輸送対象の違いによって輸送手段が異なることと関連付けて、地図から捉える。		
	5				・ 日本の交通網を、国内各地の時間的な距離が短縮されていることと関連付けて、地図から捉える。		
	6				・ 日本の交通網を、地方都市間では時間的な距離が短縮されていないところもあることと関連付けて、地図から捉える。		
	7				・ 日本の交通・通信網の結びつきを、様々な面で強く結び付いている地域や、特定のことで結び付いている地域、相対的に見てまだ結び付きの弱い地域が見られることと関連付けて、地図から捉える。		
	8				・ 日本の交通・通信網を、整備が進むことで各地域間の結びつきが変化していることと関連付けて、地図から捉える。		
	9				・ 日本の通信網を、世界の通信網が集中する拠点の一つであり、国内外の情報通信ネットワークなどの整備が進んでいることと関連付けて、海底ケーブルや大容量回線の敷設状況をあらわした地図などから捉える。		
<地域区分>	1	・ 日本を、分布に着目して、地域が持つ共通性や差異から傾向性を見出して地域区分して、地図から捉える。				・ 地図から読み取った、ある範囲がもつ働きや他の範囲との関係、共通性や傾向性、差異などに基づき、特定の地域的特色をもつ範囲を総合的に捉える。	
(3)日本の諸地域<概観>	1	・ 学習する各地方を、日本の国土全体から見た位置の特色（日本の北に位置する北海道地方など）に着目して、地図から捉える。	・ 学習する各地方の特徴を、日本全体から見た自然環境や人口、産業、交通・通信との共通性やその地方ならではの特色（地方的特殊性）に着目して、地図から捉える。				
	2	・ 学習する各地方の位置を、外国との距離や歴史的背景（大陸に近く外国との交流が盛んな九州地方など）に着目して、地図から捉える。					
<中核考察> ～自然環境～	3	・ 地域の地形(おもな山脈や平野、半島、島、川など)の位置や広がりを、地図から捉える。	・ 地域の特徴を、火山と温泉、地熱発電所が多いことに着目して、地図から捉える。	・ 地形や気候などの自然環境の特色を、地域の産業（九州や四国の温暖な気候と促成栽培など）と関連付けて、地図から捉える。		・ 自然環境を中核として、産業や人々の生活の営みなどと関連付けて捉えた地理的事象の成立条件に基づき、地域的特色や地域の課題を総合的に捉える。	
	4	・ 地域の気候(気温、降水量、季節変化)の分布と、その要因を、地図から捉える。		・ 地形や気候などの自然環境の特色を、地域の人々の生活・文化など（北陸地方や東北地方の豪雪と利雪など）と関連付けて、地図から捉える。			
	5	* ・ 地域の世界自然遺産、国立公園とジオパークの分布を、地図から捉える。					
	6			・ 地域の課題を、地域で多い自然災害や自然災害に応じた防災対策と関連付けて、地図から捉える。			
<中核考察> ～人口や都市・村落～	7	・ 地域内のおもな人口分布(都市、ニュータウンも含む)や動態を、地図から捉える。	・ 地域の特徴を、高齢化が進んでいる地域が多いことに着目して、地図から捉える。	・ 地域の人口分布を、地形(山地や平野・盆地の分布)と関連付けて、地図から捉える。	・ 各地方の人口分布を、交通と関連付けて、地図から捉える。	・ 人口を中核として、自然環境や産業、交通・通信などと関連付けて捉えた地理的事象の成立条件に基づき、地域的特色や地域の課題を総合的に捉える。	
	8	・ 地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地を、人々の生活・文化や産業などに関する事象と関連付けて、地図から捉える。			・ 地域の人口密度の変化を、交通網の整備(高速道路の延伸や鉄道の廃線など)と関連付けて、地図から捉える。		
	9		・ 東京の特徴を、首都機能に着目して、地図から捉える。				
	10		・ 都道府県庁(政令指定都市)が設置されている都市の特徴や共通点を、都市の歴史的背景や産業、交通などに着目して、地図から捉える。		・ 都市における商業地域や住宅地域の形成を、人口流入により都市化が進んだこと（仙台市など）と関連付けて、地図から捉える。		
	11		・ 大都市圏の特徴を、地価分布に着目して、地図から捉える。				
	12				・ 地域の過疎化とそれに伴う地域の変化を、交通網の発達や縮小、通信網の発達と関連付けて、地図から捉える。		
	13		・ 地域の特徴を、過疎・過密問題の解決が地域の課題となることに着目して、地図から捉える。		・ 過疎地域の地方創生を、交通・通信網の整備（徳島県の通信網の整備と企業誘致など）と関連付けて、地図から捉える。		

マトリクス表 B 《地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《中学校》

*取りあげる地域によっては扱わない場合があるもの

概念	発達段階	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
＜中核考察＞ ～産業～	14	・ 地域のおもな産業や土地利用の分布を、地図から捉える。	・ 地域の特徴を、業種の変化（愛知県の繊維産業から自動車工業への変化など）に着目して、地図から捉える。	・ 地域でさかんな農業や工業などの産業が立地する理由を、地形や気候、土壌などの自然環境と関連付けて、地図から捉える。	・ 地域の農業や工業などの産業が盛んな理由を、生産地と消費地といった関係に着目して、交通・通信と関連付けて、地図から捉える。	・ 産業を中核として、自然環境や交通・通信などと関連付けて捉えた地理的事象の成立条件に基づき、地域的特色や地域の課題を総合的に捉える。
	15	・ 地域のおもな地場産業・伝統的工芸品・観光地・郷土料理などの分布を、地図から捉える。	・ 地域の特徴を、産業に関する土地利用（甲府盆地の水田と果樹園の分布、北海道地方の田畑の面積など）やその変容（工業地帯の拡大など）に着目して、地図から捉える。	・ 温泉やスキー場など地域の観光産業が立地する理由を、地形や気候などの自然環境や交通網と関連付けて、地図から捉える。		
	16		・ 地域の特徴や課題を、産業の振興と環境保全の両立などの持続可能な社会づくりに着目して、地図から捉える。			
	17		・ 商業やサービス業などの産業が盛んな理由を、人口分布に着目して、地図から捉える。			
＜中核考察＞ ～交通や通信～	18	・ 地域の交通の分布を、地図から捉える。	・ 地域の特徴を、交通に着目して、地図から捉える。	・ 地域の交通網の分布を、地形と関連付けて、地図から捉える。	・ 交通・通信の発達（衰退）が地域間の結びつきに及ぼした影響を、人口の動き（交通網の発達と都市圏の拡大など）と関連付けて、地図から捉える。	・ 交通・通信を中核として、自然環境や産業、人口などと関連付けて捉えた地理的事象の成立条件に基づき、地域的特色や地域の課題を総合的に捉える。
	19				・ 交通・通信の発達（衰退）が地域間の結びつきに及ぼした影響を、産業の動き（東北地方の交通網整備に伴う工業団地の建設と企業誘致など）と関連付けて、地図から捉える。	
	20				・ 交通・通信の発達（衰退）が地域間の結びつきに及ぼした影響を、人々の生活の営みの変容（瀬戸大橋の開通と通勤・通学圏の変容など）と関連付けて、地図から捉える。	
	21				・ 他地域との結びつきの変化を、交通網の整備（連絡橋と四国地方の野菜の出荷先の変化など）と関連付けて、地図から捉える。	
	22				・ 交通・通信網の整備や維持の取組を、地域の課題（圏央道などの整備と東京への一極集中の緩和など）と関連付けて、地図から捉える。	
＜中核考察＞ ～その他の事象～	23	* ・ 地域の世界文化遺産や伝統的町並みの分布を、地図から捉える。	* ・ 地域の特徴や課題を、産業や文化の歴史的背景や開発の歴史（北海道地方の開発とアイヌの文化など）などに着目して、地図から捉える。			・ その他の事象を中核として、自然環境や交通・通信などと関連付けて捉えた地理的事象の成立条件に基づき、地域的特色や地域の課題を総合的に捉える。
	24	* ・ 地域、外国人旅行者が多い観光地の分布を、地図から捉える。				
	25		* ・ 地域の特徴や課題を、環境問題や環境保全の取組（近畿地方の琵琶湖の水質保全など）に着目して、地図から捉える。	* ・ 地域的特色や課題を、開発と環境保全の取り組み（琵琶湖周辺の都市化と水質保全など）を関連付けて、地図から捉える。		
	26		* ・ 地域の特徴や課題を、伝統的な生活・文化（琉球文化、東北地方の伝統行事など）などに着目して、地図から捉える。			
(4)地域の在り方	1		* ・ 地域の特徴（景観）を、地域が抱える課題に着目して、地図から捉える。	* ・ 積雪や降雨、気温の変動など、地域に影響を与えている自然的な要因を、統計地図(降水量や平均気温の統計など)から捉える。	* ・ 産業の変容や交通の発達・衰退などといった地域に影響を与えている社会的な要因を、統計地図(産業統計、人の移動の統計など)から捉える。	・ 地域が抱えている課題や地域がたどってきた変容をふまえながら、持続可能な社会をめざして、地域的特色を生かしたよりよい在り方を総合的に構想する。
	2		* ・ 他地域の特徴（景観）を、考察したい地域と類似した自然環境や課題に着目して、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域における過密化（過疎化）を、自然的な要因と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域における過密化（過疎化）の要因を、交通の発達や衰退、地域の内外との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	
	3			* ・ 調査対象地域における産業の発達（衰退）を、自然的な要因と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域において産業が発達（衰退）した要因を、交通の発達や衰退、地域の内外との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	
	4			* ・ 調査対象地域における避難経路や避難時の課題を、自然条件と関連付けて、地図から捉えることができる。	* ・ 地域で産業や交通が発達（衰退）した要因を、複数の地図を比較したり、地域の周囲の状況を地図から読み取ったりして捉える。	
	5			* ・ 持続可能な社会を推進したり阻害したりする要因を、自然条件と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 持続可能な社会を推進したり阻害したりする社会的な要因を、他地域との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	
	6			* ・ 調査対象地域において人々の生活を守る対策を、予測される自然災害と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 調査対象地域において人々の生活を守る対策を、他地域との結びつきと関連付けて、地図から捉える。	
	7			* ・ 地域の実態や課題解決のための取組を、自然環境の保全と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 地域の実態や課題解決のための取組を、人々の生活を支える社会資本(病院・鉄道・バスなど)と関連付けて、地図から捉える。	
	8		* ・ 調査対象地域の特徴（景観）を、他地域の特徴（景観）との比較に着目して、地図から捉える。	* ・ 課題解決をめざした他地域の取組を、自然環境の保全状況と関連付けて、地図から捉える。	* ・ 課題解決をめざした取組を行っている他地域の社会資本(避難タワーや給水所、巡回バスなど)の整備状況を、地図から捉える。	
	9			* ・ 持続可能な社会をめざした地域の在り方を、その地域の自然環境の特徴と関連付けて、地図から構想する。	* ・ 持続可能な社会をめざした地域の在り方を、地域の内外との結びつきと関連付けて、地図から構想する。	

日本地理教育学会 第73回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性(2)

—中学校社会科地理的分野における試案の作成—

教授用資料

印刷・発行 株式会社 帝国書院 2023年9月